



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

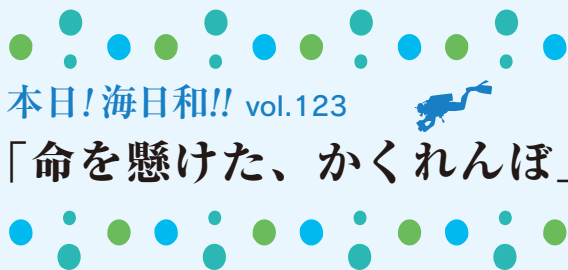
「光」

なんという一年やったんやろう。今年の入学生や卒業生は特に。一生に一度の学生生活を我慢と不安で過ごして、この一年は何やったんやろう、と寂しくなったり悔しんだり、時には空虚感を抱くこともあったはず。遠足も修学旅行も文化祭や運動会も、何もできんかったけど、得るものはあったんやと信じとってほしい。目に見えて手に入れられたものが全てじゃないけんね。

目標に向かって歩いた時、ゴールにたどり着けんくても、夢が叶わんくてもその経験は自分の糧になる。歩いた軌跡は誰にも消すことはできんし、そこで得た経験や知識は一生モノの財産になる。それは誰にも奪えんこと。恥ずかしいのは目標に到達できんことや、夢を叶えられんかったことじゃなく、行動せんこと。"失敗"は一生懸命やっとな人だけがもらえる勲章や。無駄になるかならんかは自分次第。

この一年も同じ。しんどかった分、悔しかった分、人との繋がり大切さに気付き、本当の友達を見つけられた人もおるやろう。あらためて家族の大切さや言葉の温かさを知った人もおるやろう。そうして得たことを明日の自分に、これからの生かしていこう。そうやって前を向いていこう。まだまだ続くこの生活の中に光を見つけ出そう。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.123

「命を懸けた、かくれんぼ」

「もーいーかい？」「まーだだよ！」皆さん、ご存知の「かくれんぼ」の掛け声だが、海の中では、命懸けの「かくれんぼ」が連日繰り返されている。

写真の中にエビが隠れているのがお分かりだろうか。その名もカクレエビ。体長3センチメートルほどと小さく、体が透明な上、すみかに合わせた模様をしているので、なかなか見つけることができない。見つけるコツは、すみかとなりそうなサンゴを探し、違和感を見つけること。なんとなくおかしいと感じた所をじっくり探していると、運が良ければ見つけることができる。

撮影している時には分からなくて、後日、写真を見てから気が付くことも多い。このエビは



【アカスジカクレエビ】

メスで、お腹に卵を抱いていた。こんな発見もダイビングの楽しみの一つだ。

私に見つかっても写真を撮られるだけだが、魚に見つかりと命を取られてしまう。まさに、命を懸けたかくれんぼ。このお母さんエビが最後まで隠れ通し、子孫を残せることを祈っている。

(撮影地：鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる